



大野 岳

【学校教育目標】

**ふるさとを愛し、夢に向かってたくましく
挑戦する児童生徒の育成**

伊万里市立南波多郷学館

第 4 号

令和7年11月6日発行

文責 校長 多久島 一仁

郷学館の文化を受け継ぎ、発表しました！

11月1日（土）に文化発表会がありました。今年のテーマは「郷心響鳴～小さな一歩が、大きな未来～」でした。このふるさと南波多で鳴らした美しい小さな音色が響き渡り、それぞれの子ども



たちの大きな未来につながっていく、そんな文化発表会になったと思います。



展示では、一人一人、時間をかけて作ったことが分かるものばかりでした。先日の昼休みに美術室をのぞくと、展示する絵を完成させようと、



たくさんの方が絵をかいていました。そうした努力の跡が見える作品ばかりでした。

そして、ステージ発表では、大勢の人たちの前で、授業で学習したことや、歌や演技を堂々と発表しました。

1年生は、数字をいろんなものと組み合わせて、絵とともに大きな声で元気よく発表してくれました。

2年生は、雨のいろんな音を、本当にそんな音が聞こえてくるように、ジェスチャーを交えて、声と動きで表現してくれました。

3年生は、初めて習った英語をみんなに伝えるように、発音に気を付けながら話してくれました。「ひまわりの種」を英語で「サンフラワーシード」というのを初めて知りました。

4年生は、元気な歌で登場し、「ありがとう」という詩を全身で表現してくれました。いろいろなものに対する感謝の気持ちがすごく伝わってきました。



5年生は、南波多の魅力をニュース仕立てで発表してくれました。このままアイテレビで放送していいくらいの発表でした。伊万里牛が通常の牛よりも大きいことや、この辺りが大野と呼ばれていたことなどを新たに知ることができました。

6年生は、タイワンツバメシジミについて、絶滅危惧種や温暖化、気候変動、外来種などと結び付けて発表してくれました。水の使用量が増えると二酸化炭素が増えるというのは、意外と気付かない視点ではないかと思いました。

7年生は、最初、劇をするか、総合をするかで意見が分かれていましたが、それを融合させるというやり方で今回の発表の形態を生み出しました。南波多のことについて、低学年でも正解を答えやすいようなクイズをたくさん準備してくれていました。

8年生は、職場体験学習の内容を劇にしました。たくさんのギャグをおりませ、トイレの場面では小学生の心をはっかりつかみました。職場体験の場に泥棒が登場しましたが、社会はまじめに働く人たちに支えられているという展開は絶妙でした。

9年生は、知覧の特攻兵のことを映画に沿った形で、劇で表現しました。最後の合唱が終わって、あまりにも余韻に浸りすぎて、来賓の皆様をお送りするのも忘れていたほどでした。修学旅行の知覧での9年生が展示物を見る姿、講話を聴く姿が真剣だったことを思い出し、この劇への思いを感じることができました。



昼休みには、自分たちが表現したいことを思う存分発揮してくれました。日頃の努力の成果を発表し、観客のみんなを楽しませてくれました。ちなみに、「未成年の主張」は、南波多郷学館が開校してから始まったものです。それが今も続き、文化になっていることを感じました。

今回の文化発表会での小さな一歩が自信となり、大きな未来につながってくれることを期待しています。